

# 法華経と御書に学ぶ奏楽の淵源と現在

三 谷 祥 祁

論題の切っ掛けは一冊の本に書かれていた文章でした。哲学者と宗教家の共同著書『永遠のいのち（日蓮）』と題する本です。昭和四十四年、（一九六九年）初版「仏教の思想」全十二巻シリーズに入っています。この本の中にある話に戸惑いと疑問を感じました。要約しますと「日蓮宗の芸術性は希薄」という会話がありました。希薄とは密度や濃度が薄く乏しい事です。私の解釈では、社会性が乏しく、芸術的な表現で人の心を感動させる要素が脆弱であると考えますが、反面、吉報のメッセージと受け取り大いに躍進する力を得たと受け取ることもできます。新しく開拓できる発展的要素が大いにありますよと告げてくれているのなら結構なことです。「戸惑い、疑問、吉報のメッセージ、躍進する力」。このキーワードから、日蓮宗の芸術性と社会への迎合性を学んでみたいと思いました。その指針には、日蓮宗の信仰の要である法華経と御書から学ぶ芸術性、現代と未来に於かれる宗門の仏教芸術の趨勢を思い、時代にマッチしたヒントを探索致しました。

芸術とは人類の文化であり、「祈りから始まり祈りに帰る」文明の象徴です。静極と動極があり、創作と表現を伴うものであります。静極の中には人知れず何百年も何千年も闇に埋もれている一人ぼっちの芸術もあり、動極は静の芸術を表現する芸能と呼ばれる参加型の芸術とも言えるでしょう。

宗教を冠する芸術・芸能とは御神仏への讃嘆とご供養、救済、安堵を根にした自然美、創作美を含む文化的表現であります。文化的表現は、創作、鑑賞、体感により成立します。何を作り、何を見て、何を感じ、何をもたすかと

いう、こころの豊かさを紡ぐ手立てでもあります。それらを醸し出す要素はたくさんあるでしょう。自然、経典、仏教書、建築、塔、寺院、伽藍、法衣、念珠、仏具、造園、教会、チャペル、花、バイブル、宗教行事、祭祀、祭典、礼拝着衣、辞典、読経、読誦、文芸、音楽、雅楽、演奏具、笙しょう、篳篥ひちりき、龍笛りゅうてき、琵琶、琴、声明の旋律楽器、打楽器、弦楽器、吹奏楽器、造形、彫刻、賛歌、絵画、今様、舞楽、墨絵、仏画、料理、菓子、歌道、華道、香道、茶道、仏歌、和歌、詩歌、漢文歌、和文歌、庭園、絵画、墨、筆、説教、浪曲、講談、浄瑠璃、歌舞伎、謡、能、能管、神楽、演劇、演奏、オペラ、戯曲、童話、人形劇、仏画、衣服、書物、管弦、造形、彫刻、仏具、PC、SNS、通信、機器、化粧、武具、色彩、照明、舞台、オラトリオ、ライブ、アニメ、ミュージカル、オーケストラ、CG、ボ  
ーカロイド……

## 宗教芸能の活動域

- 一 社会的融合性・娯楽性の高いもの  
笑い、人情、娯楽性の芸能、落語、浪曲、演劇、ミュージカル、講談、書籍……
- 二 芸術的鑑賞性の高いもの  
雅楽、伎楽、舞楽、歌舞、今様、歌舞伎、浄瑠璃、能楽、楽器の演奏、歌唱、美術、映画、オラトリオ、オペラ、舞踏、建築、仏像、庭園、書画、御堂の装飾、CG……
- 三 宗教的信仰性の高いもの  
寺院建築、塔、法要や舞台での宗教儀式を表す崇高性、行事の式次第、香華、聲明、読経、雅楽、仏歌、管弦楽  
……
- 四 それらの統合的芸術を発表する場所

寺院、ミュージアム、芸能会館、図書館、博物館など、表現の舞台、場所、屋外、マスメディアを媒体とする発信……

## 五 未病と認知症への対応

冒頭の著書は、この一から四までの条件を占める割合が、日蓮宗の芸術性の評価に繋がるとされるのでしよう。寺院建築、仏像、宗教的造形物への見た目の評価、地域社会とのかかわり、社会貢献度、人情、娯楽性、芸術的感動、宗教的啓蒙など、それぞれのモチベーションでの表現力を問われているのかも知れません。「娯楽性の笑い」、「芸術性の感動」が乏しいと評価されているのだとも考えます。活動域の五、未病と認知症への対応は現在の大きいなる課題です。日本の各所で「娯楽性」、「芸術的感動」の宗教的な催しが行われていると思いますが、伝わってはきません。ときには済んでしまった記事を読み、前もって分かっていたら行きたかったと思えるような催しがあり、残念に思ったことを覚えていきます。開催前と開催後のニュースこそ思いやりです。日本の各地で催されている芸術的、文化的な宗教芸術の開催が伝わるにはどうすればいいでしょうか。宗門の芸術・芸能コラムがあれば、前もって分かりますから予定も立ち、なお結構なことだと思っています。消えゆく無形芸術の花火でさえ、毎年打ち上げれば継続性のある感動が高く、「その時期になった」という待ち望む期待感が生まれます。二〇一三年十月十九日東京墨田区トリエイホールでの『オラトリオ 日蓮聖人』があり鑑賞させていただきました。オーケストラをバックにした大スペクタクルで荘嚴な演出でした。この舞台は、同曲の初演から実に三十二年振りの再演でした。総出演者は約二五〇人にのぼったと紹介されました。今後、恒例のお祀り行事の様に毎年、繰返し上演されることが、創意工夫を生み、日蓮聖人の芸術性を高め続け、市民も参加型の芸能へと昇華されれば楽しい事と思っています。以前から、文化、芸能、芸術を宗教とコンタクトさせていく活動や考え方に強い関心を持ってきました。法華経には伎楽（お面を付けて舞う演劇）がよく登場しますが、二〇一三年四月三日、京都大本山妙顕寺さまでは伎楽の大法要が近年はじめて厳修されま

した。毎年恒例の行事になれば一段と人気を呼ぶでしょう。大阪には平成二十七年現在日本一の超高層ビル「あべのハルカス」がありますが、ここでは今年一月に声明ライブがありました。宗教芸能が社会に参加していき、市井の人と一緒に感動するイベントの一環です。コンピュータグラフィックス（CG）では、宮沢賢治の銀河鉄道など作品の数々に「初音ミク」という可愛い女子のキャラクターを登場させる映像があります。賢治作品をボーカロイドの演出により、回想的なやすらぎを与えています。日蓮宗新聞社では「小僧くんシリーズ」が紹介されています。かわいいキャラクターが一つのシンボルとなって親しみを与えています。シンボリックな小僧くんがボーカロイドで登場すれば楽しいでしょう。江戸時代から明治にかけて、『日蓮聖人御法海』、『日蓮記』などの芝居が人気を呼び、浄瑠璃や歌舞伎での演出が庶民の娯楽となっていたようです。私などは、近年の田中智学著『佐渡・龍女成仏などの戯曲』、本多日生著『法華経講義』、山川智応著『日蓮聖人研究』、山上、泉著『日蓮聖人遺文の文章・語法研究』など豊かな文献に強い印象をいただきました。

持続性のある文化、芸術、娯楽はどのように考えていけば、宗門の芸術性を満たしていけるのかと考えます。法華経と御書が示される芸術性を探索致しますと、奏楽が三部経の芸術を優雅に飾っています。お経は、経文の漢字を追いかけていく読経で始まり、経文の漢字を読み終えることで読経が終わります。經典に見える奏楽の淵源を見ることができずならば、豊かな美しい色鮮やかな法華経の世界を知ることになります。日蓮聖人のご遺文を彩る奏楽の演舞、色、音、動きなどの展開を目の前で見ることが出来れば、ご遺文の素晴らしさがよりリアルなインパクトで信仰者の心を満たしてくれるでしょう。

法華経は文学、宗教は芸術などの言葉で表現することはすばらしいことです。法華三部経、ご遺文にあふれる宗教芸術・芸能の奏楽の淵源を知りますと、宗教芸術の大切さと必要性が迫ってきます。一番のウエイトを占めるのは音です。読経も音、法要も音、音無くしては宗教の意義と役割を十分に伝達できません。法華三部経には音を根元とし

た奏樂が満ち溢れております。見てみましょう。

## 法華三部經にみえる宗教芸術・芸能

無量義經徳行品第一

伎楽（仮面舞樂劇） 迦楼羅（笛を吹く神） 摩喉羅伽（琵琶を弾く神）

無量義經說法品第二

伎楽、歌 摩喉羅伽（琵琶を弾く神） 迦楼羅（笛を吹く神） 緊那羅（音楽の神）

無量義經十功德品第三

伎楽、歌

妙法蓮華經序品第一

樂説弁才 伎楽、楽、吹大法螺、大法鼓、造諸塔廟

方便品第二

若使人作樂 擊鼓吹角貝、簫笛琴箏篪、琵琶鏡銅鈸、如是衆妙音、歌唄頌仏徳、

供養於画像、建立諸形像、刻彫成衆相、嚴飾作仏像、綏画作仏像、若草木及筆、

或以指爪甲 而画作仏像

譬喻品第三

伎楽

授記品第六

伎楽

化城喻品第七

諸天擊天鼓 竝作衆伎楽

法師品第十

作諸伎楽 伎楽歌頌

見宝塔品第十一

旛蓋伎楽

提婆達多品第十二

伎楽歌頌、踊、琴、椎鐘告四方、衣服瓔珞

安樂行品第十四

讚詠

如來壽量品第十六

伎楽

分別功德品第十七

衆鼓伎樂、簫<sup>しょう</sup>笛笙篳、種種舞戲、妙音声、歌唄讚頌<sup>しょう</sup>、歌詠諸如、造立僧坊

法師功德品第十九

歌、頌、琴、鐘鈴螺鼓声、琴瑟笙篳声、簫笛之音声、清浄好歌声、螺声、鼓声、鐘声、

鈴声

藥王菩薩本事品第二十三

伎楽、歌

妙音菩薩品第二十四

伎楽、天楽

陀羅尼品第二十六

伎楽

普賢菩薩勸発品第二十八

伎楽

仏説観普賢菩薩行法経

池玉女鼓楽絃歌、化五筥篳、一一筥篳、五百樂器

### 法華經にみえてゐる音、楽を冠する神佛菩薩

序品第一

観世音菩薩、楽音乾闥婆王、美音乾闥婆王、楽乾闥婆主、緊那羅（音楽の神）

摩<sup>ま</sup>喉<sup>ごう</sup>羅伽（琵琶を弾く神）、迦<sup>か</sup>楼<sup>る</sup>羅（笛を吹く神）

譬喩品第三

摩<sup>ま</sup>喉<sup>ごう</sup>羅伽（琵琶を弾く神）、迦<sup>か</sup>楼<sup>る</sup>羅（笛を吹く神）、緊那羅（音楽の神）

化城喩品第七

摩<sup>ま</sup>喉<sup>ごう</sup>羅伽（琵琶を弾く神）、緊那羅（音楽の神）

法師品第十

摩<sup>ま</sup>喉<sup>ごう</sup>羅伽（琵琶を弾く神）、迦<sup>か</sup>楼<sup>る</sup>羅（笛を吹く神）、緊那羅（音楽の神）

見宝塔品第十一

大楽説菩薩、迦<sup>か</sup>楼<sup>る</sup>羅（笛を吹く神）、摩<sup>ま</sup>喉<sup>ごう</sup>羅伽（琵琶を弾く神）、緊那羅（音楽の神）

勸持品第十三

大楽説菩薩

法師功德品第十九

摩<sup>ま</sup>喉<sup>ごう</sup>羅伽（琵琶を弾く神）、迦<sup>か</sup>楼<sup>る</sup>羅（笛を吹く神）、緊那羅（音楽の神）

常不軽菩薩品第二十

威音王仏、威音王如来

如来神力品第二十一

摩喉羅伽（琵琶を弾く神） 迦楼羅（笛を吹く神） 緊那羅（音楽の神）

藥王菩薩本事品第二十三

摩喉羅伽（琵琶を弾く神） 迦楼羅（笛を吹く神） 緊那羅（音楽の神）

妙音菩薩品第二十四

妙音菩薩 妙音菩薩摩訶薩 雲雷音王 養雲雷音王 仏

摩喉羅伽（琵琶を弾く神） 迦楼羅（笛を吹く神） 緊那羅（音楽の神）

觀世音菩薩普門品第二十五

觀世音菩薩 摩喉羅伽（琵琶を弾く神） 迦楼羅（笛を吹く神） 緊那羅（音楽の神）

妙莊嚴王本事品第二十七

雲雷音宿王

仏説觀普賢菩薩行法經

樂見普賢菩薩 樂見多宝仏

## 日蓮聖人御書にみえる宗教芸術・芸能・奏樂に関する御述作

〔法華題目鈔〕

師子の筋を琴の絃として一度奏すれば余の絃悉くきれ、……

〔日女御前御返事〕

東方宝威徳浄王仏の国より万億の伎樂を奏し、無数の八部衆を引卒して、おくればせして  
せ給しかば、仏の御きそく（気色）やあしからんずらんと思ひし故にや、色かへて末代に法  
華經の行者を守護すべきやうをねんごろに申上られしかば、仏も法華經を閻浮に流布せんこ  
と、ことにねんごろなるべきと申にやめでさせ給けん。返て上の上位よりも、ことにねんご  
ろに仏ほめさせ給へり。

〔大白牛車御消息〕

帝釈は諸の眷属を引つれ給ひて千二百の音楽を奏し、梵王は天蓋を指懸、地神は山河大地を  
平等に成し給ふ。

〔四条金吾殿御返事〕

師子の筋を琴の絃にかけてこれを弾ば、余の一切の獸の筋の絃、皆きらざるにやぶる。仏の  
説法をば師子吼と申、乃至法華經は師子吼の第一也。

〔授職灌頂口伝鈔〕

管絃歌舞曲起立塔像善皆悉我等一心妙法琴

〔堯舜禹王鈔〕

父母の心をやすめんが為にをきて、琴を引て父母の心をやすめき。

〔松野殿御返事〕

天より四種の花ふり、虚空に音楽聞えて、諸仏菩薩は常樂我淨の風にそよめき、娛樂快樂し給ぞや。

〔一代聖教大意〕

声欲者絲竹管絃

〔大黒送状〕

弁財天女（琵琶を弾く神）

〔諸經与法華經難易事〕

摩喉羅伽（琵琶を弾く神） 迦楼羅（笛を吹く神）

〔一念三千法門〕

摩喉羅伽（琵琶を弾く神） 迦楼羅（笛を吹く神）

〔放光授職灌頂下〕

摩喉羅伽（琵琶を弾く神） 迦楼羅（笛を吹く神）

〔授職灌頂口伝鈔〕

管絃歌舞曲起立塔像

〔身延山御書〕

仏の仕給て法を得給し事を我朝に五七五七七の句に結び置けり。今如法經の時伽陀に誦する歌に、法華經を我得し事は薪こり菜つみ水くみつかへてぞえし。此歌を見に、今は我身につ

みしられて哀に覚えける也。

〔彼岸鈔〕

二月八月彼岸時十方諸仏歌讚也

〔神祇門〕

御神樂

〔真言宗私見聞〕

毛詩（詩經）

## 日蓮聖人御書にみえる音を冠する佛菩薩

〔呵責謗法滅罪鈔〕

千手觀音

〔神国王御書〕

観世音菩薩。師子音王仏

〔光日房御書〕

威音王仏

〔報恩抄〕

雲雷音王仏。観世音菩薩

〔法華経二十重勝諸教義〕

妙音菩薩

〔秋元御書〕

十一面観音

〔和漢王代記〕

救世観音

## 一 認知症への対応

現在の日本で起こっている問題の一つは認知症です。認知症とは、記憶力や判断力が低下し、日常生活に支障が出ている症状です。早いスピードで高齢化が進む我が国の人口は、平成二十七年一月一日、概算値は一億二千七百万人です。人口にたいして約二十六パーセントが高齢者で、高齢者の四人に一人が認知症とされています。我が国の人口は年々減少傾向にあります。人口に対する高齢者の割合は増えていきます。現在、行方不明の認知症の方は一人を超過しています。増加に対する認知症介護が追いついていないのが現実です。日本ばかりではなく、世界でも認知症者の増加に対する介護の問題が指摘されています。政府は今年、平成二十七年一月二十七日、オレンジプランを立ち上げ、医療・介護等が連携し、認知症の予防や治療のための研究開発を推進し、安全対策など、やさしい地域づくりを、省庁横断的に進めると発表しました。大阪でもこの政策に準拠して認知症対策課題の学びと実践に拍車がかかります。行政では手が足りないため、一般の住民参加型のプログラムを組み、非常に熱心なアピールをされています。

対策のポイントは認知症予備軍の段階の人、認知症になりかけの人を初期に見つけ、進行しないように食い止める

予防対策です。高齢者の介護と医療の膨大な経費を少しでも軽減させることにもつながります。認知症を見つめるためのポイントは通常とは違った人物の様子に周囲の人が気づくことです。認知症が進行しないように予防する対策を考えましょう。高齢者の事故や骨折で寝たきりの人になりますと認知症が進行する恐れがあります。深酒とタバコも弊害です。喫煙者とその近くにいる人は、アルツハイマー病になりやすいわれ、タバコの煙は認知、記憶をつかさどる大脳皮質を直接攻撃し、脳細胞にダメージを与えます。アルコール依存者は脳の萎縮や脳血管障害が高い割合で起こり、脱水症状が起こり、血液中の水分が奪われると、血管が詰まり脳梗塞などを発症することが知られています。

人が人として豊かな人生を歩むための心積りは、若い人でも、いずれ訪れる高齢化と認知症を意識しての暮らしが大切です。回想力、運動力、知的好奇心、社会参加、会話、音楽、芸術、信仰、創作など、暮らしに取り入れ、前頭葉の活性化をもたらす認知力の鍛練を心がける生活が第一であります。地域で行われている認知症セミナーに参加して実践のための学びを得ることも大切でしょう。なってしまっても、それ以上進行させない手だてを学び、助け合い、支え合っていくことがたいせつです。

法華経、日蓮聖人の御書に頻繁に登場する芸術、芸能、奏楽を知り、現実の暮らしに楽しみを見つめる心ゆたかな社会への参加をお勧めしたいと思います。

了